昭和六二年八月一日発行（毎月一日発行）
二六七号　発行／黒埼町役場　〒九五〇一二　新潟県西蒲原郡黒埼町大野二八四三－一
電話／〇二五二－七二－三一〇一　編集／企画開発課（担当：広報統計係）　印刷／㈱旭光社　経費／部四八円

人 40 アマチュア相撲をとって五十年

高橋吉雄さん　諏訪町　六十九歳

黒埼町にはいくつか土俵がある。木場小、立仏小、黒埼中、総合体育館、大野の諏訪神社。「昔はすごく相撲の盛んな土地だったんだ」と教えてくれるのは高橋吉雄さん。高助材木店のおやじさんと紹介した方が通りがいいかもしれないし、「高登」というしこ名を聞けば、あのきっつえかったしょ、と思い出してくれる人も多いかと思う。

今でもご本人にお会いすると、なるほどこの人は強かったに違いない、そんな印象を覚える。大正七年生まれだからもう七十歳近いはずなのに、がっしりした体軀、鋭い目、だみ声。若き日を話してもらった。

「今では想像できないくらい相撲は人気だった。諏訪神社の奉納相撲大会は大にぎわいだった。大野に相撲部があって、若い者は毎晩集まってけいこした」。

昭和十二、三年ころは大野相撲部の最盛期だった。高橋さんは近郷の大関となり、各地の大会で活躍。賞品かせぎのプロと間違われたりした。十四年六月に海軍の舞鶴海浜団に入隊する。

「海浜団相撲部に入りたくて、徴兵検査のとき『自分は海軍に向いております』と言ってしまった。おかげで入隊したら朝から晩まで相撲。強い人もいっぱいいてわたしなんか最初二級だった。十六年に四段になり、最後は相撲の指導員になった。十八年に乗ってた船が撃沈されてね。何時間か標流した。体力があったから助かった」。

二十年九月に復員し土俵にも復帰。県大会で優勝。二十一年、二年の国体に出場。二十三年からは家業を継ぐため現役を引退。その後現在まで後進の育成に全力を注ぐ。町の相撲連盟の会長、県相撲連盟の理事長（副会長）を務めている。県内ただ一人の日本相撲連盟七段である。

「もう五十年も相撲にかかわってきたから、人から相撲しかないと思われるといやなときもあっけど、やっぱり相撲らくてね。『高助の牛がわり』なんて言われるぐらい働いたし、書道は四段なんだけどね。まあ、でも、やっぱり相撲の高助らくてね。いい悪いは別にして相撲からは離れられないね」。

（文・五十嵐広報担当）

写真右／高橋さん。相撲だけでなく、柔道４段、剣道３段、銃剣道３段、裁断術５段という武道全般の達人である。その一方、書道４段、町の社会教育委員、保護司を務められている。まさに文武両道を極めている。左上／海軍相撲部時代の高橋さん。168センチメートル、86キロ、小柄だが右前みつをとったら強かった。左下／大野諏訪神社の土俵。屋根は昭和14年、高橋さんらが付けた。

ほんの一冊

風が吹くとき
（篠崎書林）
レイモンド・ブリッグズ
（小林忠夫訳）

「さむがりやのサンタさん」でおなじみのブリッグズの絵本です。田舎の平凡な夫婦のジムとヒルダは平和な生活をおくっていますが、ある日、原爆による風が吹き放射能に汚染され、自分たちが何によって死んでいくのかも知らずに息をひきとります。ブリッグズが長年連れそった夫人を亡くして失意のなかで書かれたもので、ほのぼのとした夫婦の会話の中に哀しさがうきぼりにされます。その平凡な日々はわたしたちの日常と二重写しとなり、私たちと政治との関わり方を問いかけてきます。なお、この夏、アニメ化された映画が新潟市で上映されます。

（紹介者：中山佳奈恵）

〈人の動き〉

6月末現在（前年比）		〔前年同月比〕
人口	22,695（＋101）	〔＋491〕
男	11,157（＋52）	〔＋259〕
女	11,538（＋49）	〔＋232〕
世帯	5,934（＋16）	〔＋146〕

6月1日～末日

出生	22	転入	131
婚姻	14	転出	50
死亡	2		

わたしたちの親や祖父、親族、友人……多くの戦死者がいます。こういった「身近な死」のほかにわたしたちは、もう一つの死を考える必要があると思います。それは朝鮮や中国、アジア各国の死です。例えば、南京で無差別に虐殺された十万人とも二十万人とも数えられる中国の人たち、強制的に日本に連れてこられ奴隷労働を強いられ、空襲や原爆で異邦の地で死んでいった朝鮮の人たち、日本軍に日本兵として徴収され戦死した人たち（この台湾の人たちには遺族年金も軍人恩給ももらえません）、「枕木の数だけ死者を出した」といわれる泰面鉄道の建設で死んだタイやビルマ、マレーシアの人たち、シンガポールで虐殺された華僑の人たち、日本軍の攻撃に巻きこまれ死んだフィリピンや南方の島々の人たち。太平洋戦争による死亡者はある資料によれば次のとおりです。日本250万人（うち民間人65万人）、台湾3万人（民間人不明）、中国1300万人（民間人1000万人）、フィリピン105万人（民間人100万人）、以下の国はすべて民間人ですが、インドシナ（ベトナムなど）200万人、インドネシア200万人、ビルマ5万人、シンガポール5千人。これらの人たちはわたしたちが止めることのできなかった、日本が起こした戦争で死んだ人たちです。つまり「犠牲者」です。この犠牲者とその遺族のかたにとって、日本は加害者なのです。わたしたちの町の身近な死を慰めるとともに、アジアの犠牲者をいたまなければならないと思います。

【今月号の表紙】

来月号は元に戻せるか、どうか。

【来月号の表紙】

水害や洪水のことを知っていませんか。どんなことでもよいのですが。**ボランティア活動、マイホームの建て方**なども募集しています。ほかにもご意見やご質問をお寄せください。